

2024年度
市政モニターアンケート
第2回集計報告



町田市市政モニター
イメージキャラクター

もにっち

目次

1. 地域コミュニティについて	・・・	5
2. 「町田市子どもにやさしいまち条例」の周知・啓発活動について	・・・	11

2024年度町田市市政モニター 第2回アンケート集計結果

実施期間 2024年12月18日（水） ～ 2025年1月17日（金）

テーマ 1. 地域コミュニティについて
2. 「町田市子どもにやさしいまち条例」の周知・啓発活動について

アンケート対象 2024年度町田市市政モニター

対象者数 192 人

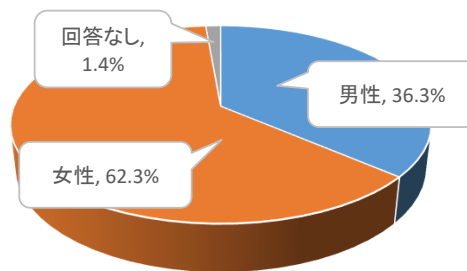
回答者数 146 人

回答率 76.0%

回答者の属性

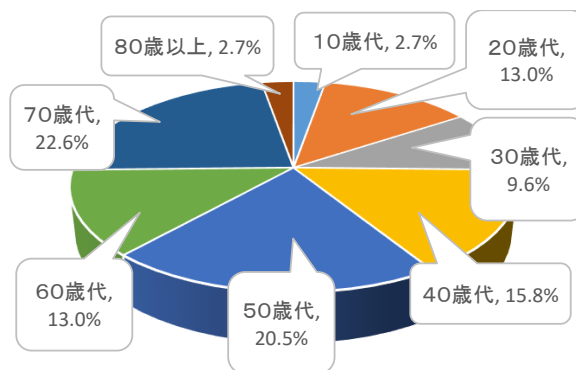
（1）性別

	人数	割合
男性	53	36.3%
女性	91	62.3%
回答なし	2	1.4%
合計	146	-



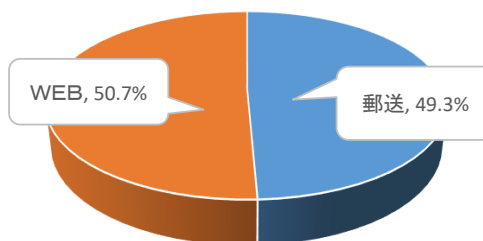
（2）年代

	人数	割合
10歳代	4	2.7%
20歳代	19	13.0%
30歳代	14	9.6%
40歳代	23	15.8%
50歳代	30	20.5%
60歳代	19	13.0%
70歳代	33	22.6%
80歳以上	4	2.7%
合計	146	-



（3）回答方法

	人数	割合
郵送	72	49.3%
WEB	74	50.7%
合計	146	-



※ 回答が択一または1つのみ選択の場合は「構成比」を、複数選択の場合は「回答比」を表示します。

※ 原則として自由記述部分は、ご本人の意思を尊重し、文体・表現はそのままといたしました。

※ 割合の表示は、小数点以下2位を四捨五入している為、合計が100%にならない場合があります。

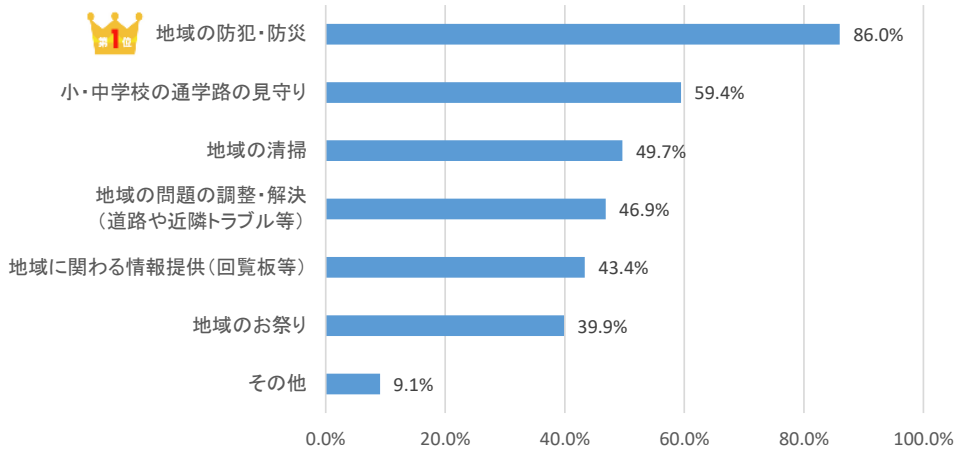
1. 地域コミュニティについて

<アンケートの趣旨>

近年、価値観やライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動の縮小、町内会・自治会の加入率の低下などにより、地域コミュニティが希薄化しているといわれています。

これらの状況に対応する施策を検討していくために、市民の皆様の地域との関わり、地域コミュニティに関する意識や活動の現状についてお伺いするアンケートを実施します。皆様のご意見をお聞かせください。

問 1 お住まいの地域で、あなたが欠かせないと思う地域活動はどれですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択可）



143名中123名が、「地域の防犯・防災」と回答しました。

【その他のご意見】（抜粋）

全て必要と思いますが、清掃は個々に気を付けたらと思い家の前を常に気をつけています。地域での防犯パトロールにはできるだけ参加、子供の見守りも自分でできることをしているつもりです。

毎年のように発生する地震・風水害では互助の行動が必要です。しかし、町内会・自治会の加入率が低下し、世代の入れ替わりも多く、三軒先はどのような人が住んでいるのかわからない状況です。何もない平和な時であればそれでも良いのですが、大災害が発生した時を考えると大きな問題と思われます。そのためには、地域の人々と顔見知りとなっておき「絆」を深めておくことが重要だと考えています。

幅広い年代の住人が、各々の同じ環境や共通する話題で集まれる機会を作る事ができるようにする。

近所の人々とのコミュニケーション 井戸端会議のようなものでよい万が一の不審者に対しても 我々はお互いに見張りをしていますとアピールできると思います。

資源ごみの回収。

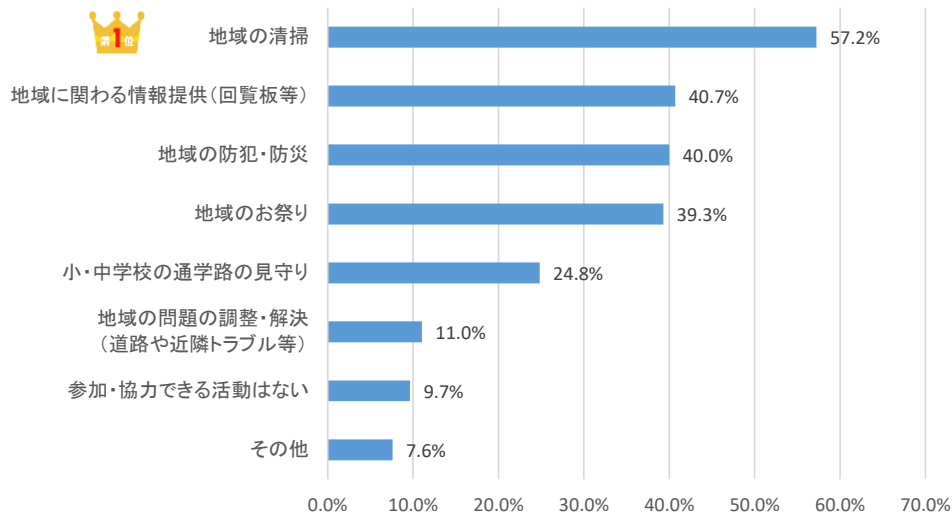
高齢者や要介護者がいる世帯の把握、顔合せ、緊急時や災害時の手助けが必要か否か、必要な場合はその内容の把握、そして実際に実行できること。

高齢者、支援が必要な方の見守り活動。

高齢者の見守り。

道路などのごみ掃除。

問2 お住まいの地域で、あなたが参加・協力できる地域活動はありますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。
(複数選択可)



145名中83名が、「地域の清掃」と回答しました。

【その他のご意見】(抜粋)

フルタイムで働いています。定年したら小・中学校の通学路の見守り、地域の防犯・防災など、協力できるかと思います。

高齢者、支援が必要な方の見守り活動。

高齢者の困りごとの相談。

SNS等、インターネットでの参加は可能。

仕事の無い日や祝祭日なら参加は出来ると思う。

自治会とか町内会が音頭をとって行う催物にはできるだけ参加したい。

お年寄りの出来ない仕事をお手伝いしていきたい。

問3 問1・問2の選択肢に記載された地域活動は、主に町内会・自治会が担っています。あなたは町内会・自治会の活動内容を知っていますか。当てはまるものに○をつけてください。
(1つだけ選択してください)

	回答内容	回答数	構成比
	知っている	60	41.1%
	一部知っている	57	39.0%
	知らない	29	19.9%



全体の41.1%の方が、「知っている」と回答しました。

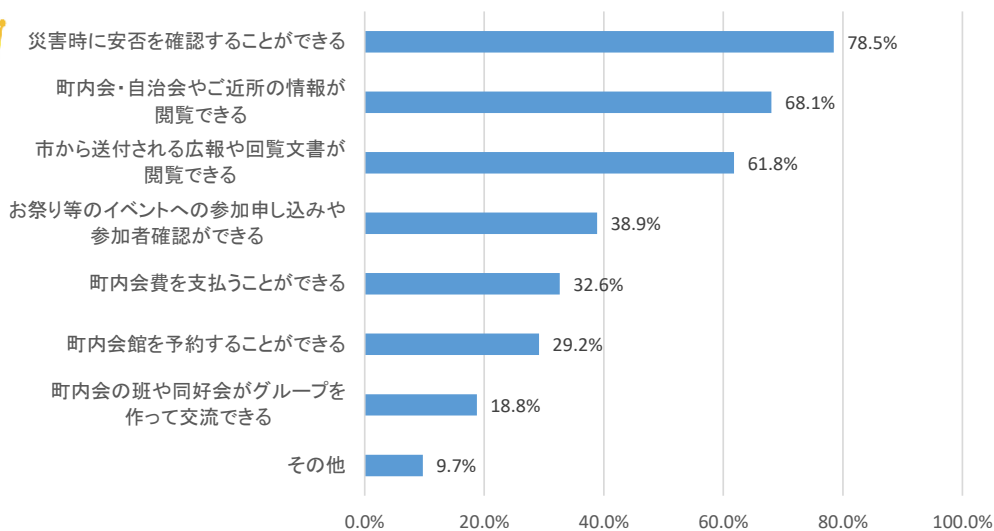
- 問4 あなたは、町内会・自治会が行う町内会・自治会活動のデジタル化（ホームページの充実、SNSによる会員同士の交流、メールやアプリでの情報配信など）についてどう思いますか。当てはまるものに○をつけてください。（1つだけ選択してください）

	回答内容	回答数	構成比
	積極的に進める方が良いと思う	45	30.8%
	進める方が良いと思う	80	54.8%
	進めなくても良いと思う	13	8.9%
	進めない方が良いと思う	7	4.8%
	無回答	1	0.7%



全体の54.8%の方が、「進める方が良いと思う」と回答しました。

- 問5 町内会・自治会活動をデジタル化する場合、あなたがあれば便利だと思う機能等は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択可）



144名中113名が、「災害時に安否を確認することができる」と回答しました。

【その他のご意見】（抜粋）

デジタル化は高齢者には不向き。進めるにはもっと簡単で、いつでも気軽にすべきで、そのようなツールを全戸支給するしかない。デジタル化しましたと言われても、ワンタッチで情報を得られる仕組みにはなっていない。回覧板・掲示板は瞬時に情報を得られる。
デジタル化して欲しくはありません。
災害時の安否確認に加えて、消防や警察等への通報。
同じ年齢層(特に若年)向けの情報プラットフォームやコミュニティ。
個人的には紙の広報や回覧板に慣れているので（それしか使えないので）、デジタル化には戸惑いを覚えます。
便利かどうかより、情報（個人）管理に不安を感じる。

- 問6 町田市では町内会・自治会活動のサポートとして、電子回覧板やコミュニティ機能等がある町内会・自治会向けSNS「いちのいち」を導入しています。あなたは「いちのいち」を知っていますか。当てはまるものに○をつけてください。
(1つだけ選択してください)

	回答内容	回答数	構成比
	知っていて利用している	4	2.7%
	知っているが利用していない	14	9.6%
👑	知らなかった	126	86.3%
	無回答	2	1.4%



全体の86.3%の方が、「知らなかった」と回答しました。

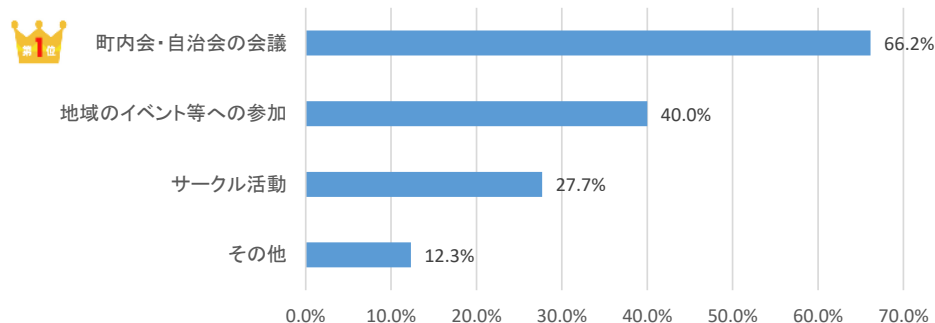
- 問7 あなたは、町内会・自治会の町内会館等の集会施設を利用したことはありますか。当てはまるものに○をつけてください。
(1つだけ選択してください)

	回答内容	回答数	構成比
	はい	66	45.2%
👑	いいえ	80	54.8%



全体の54.8%の方が、「いいえ」と回答しました。

- 問8 問7で「1. はい」と回答した方にお聞きます。どのような用途で集会施設を利用しましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択可)

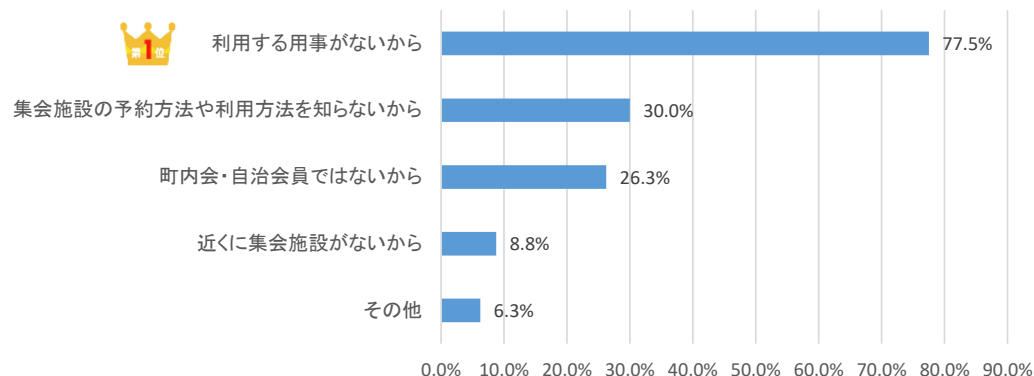


65名中43名が、「町内会・自治会の会議」と回答しました。

【その他のご意見】(抜粋)

子供会の集会(クリスマスイベントなど)
老人会活動(カラオケ、輪投げ、シニア体操、誕生会、役員会他)
管理組合の定期総会開催
少年サッカーチームの会議やイベント
PTAの集まり

問9 問7で「2. いいえ」と回答した方にお聞きます。利用したことがない理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択可）



80名中62名が、「利用する用事がないから」と回答しました。

【その他のご意見】（抜粋）

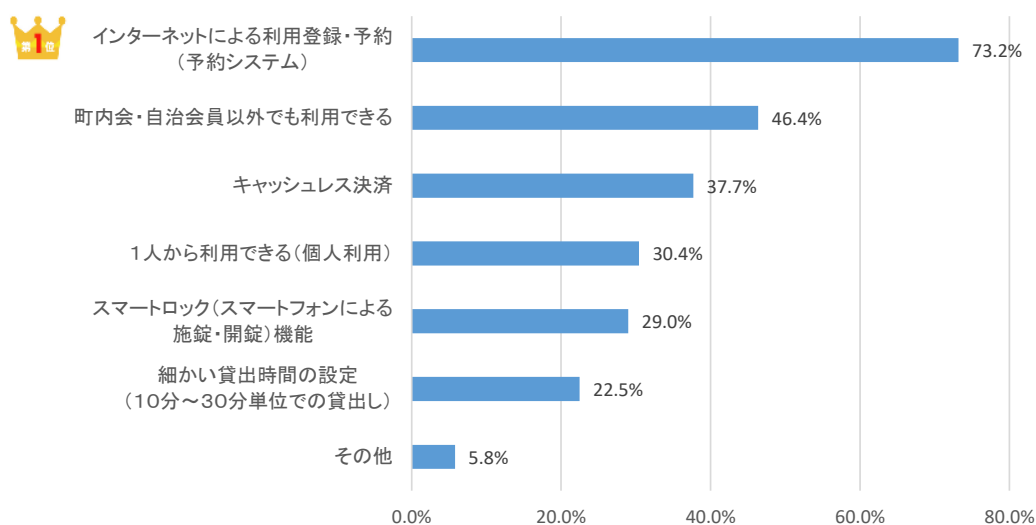
興味が沸くようなものがなかったり人数制限があったりするから。（広報などで募集するものは、ほとんど抽選だったりして当たらなかった）

使用したいと思いますが、いつも満員で予約が出来ません。

利用したい事柄、利用したい場所が近くにない。

集会施設の所在を知らない。

問10 あなたは、町内会・自治会の集会施設の利用にあたり、あれば便利だと思う機能等はどれですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択可）



138名中101名が、「インターネットによる利用登録・予約（予約システム）」と回答しました。

【その他のご意見】（抜粋）

営利目的はダメと言われている。どこまでが営利目的、非営利目的なのか明確な区別が提示されていない。サークル活動をすれば、講師等に礼金を払うこともあるし、お菓子代などもかかるため会費をいただくこともあり得る。光熱費負担もあるので集会使用料も必要。こちらの不安があるため有効活用できていない。明確な判断基準を提示して欲しい。

集会施設は町内会・自治会会員がまずは優先（前提）されるべきだと思いますので、会員以外のみの利用に関しては、何らかの一線（条件）を引くべきだと思います。

今のままでよいです。

近くに自治会はありますが、利用方法が面倒で使いにくい。

全町内会・自治会が集会施設を持っているとは思えません。集会施設のない地域・町内への不公平感を公的施設で補えるよう望みます。

集会施設は不要と思います。なぜなら町田市民になって30年間利用した事がないが、不便と思った事がなかった為。



2. 「町田市子どもにやさしいまち条例」の周知・啓発活動について

＜アンケートの趣旨＞

町田市では、子どもが幸せに暮らすことができる「子どもにやさしいまち」を実現することを目指して、2023年12月に「町田市子どもにやさしいまち条例（まちだコドマチ条例（ルール）」を制定しました。

本条例は【生きる権利】【育つ権利】【守られる権利】【参加する権利】の4つを「子どもの権利」として定め、子どもにも大人にもわかるよう示しています。また、その権利を守るための大人の責務を明確にしています。

すべての大人が、一人ひとり「子どもの権利」を理解し、考えて行動し、それぞれの立場で活動する中でもお互いに支え合うことで「子どもにやさしいまち」の実現を目指す条例です。

今後の「町田市子どもにやさしいまち条例」の周知・啓発活動の参考とするため、皆様のご意見をお聞かせください。

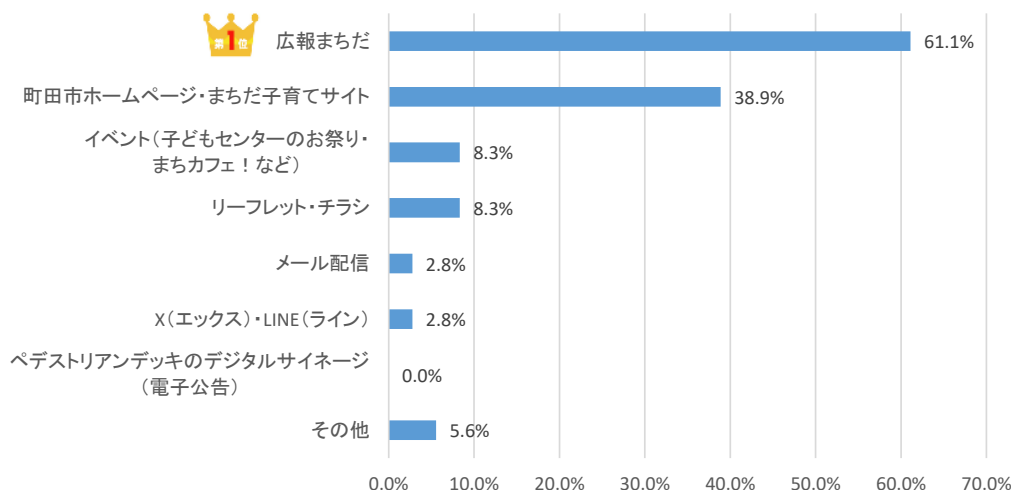
問11 あなたは、「町田市子どもにやさしいまち条例（まちだコドマチ条例（ルール）」を知っていますか。当てはまるものに○をつけてください。
(1つだけ選択してください)

回答内容	回答数	構成比
聞いたことがあります内容も知っている	4	2.7%
聞いたことはあるが、内容は知らない	36	24.7%
聞いたことがない	105	71.9%
無回答	1	0.7%



全体の71.9%の方が、「聞いたことがない」と回答しました。

問12 問11で「1. 聞いたことがあります内容も知っている」・「2. 聞いたことはあるが、内容は知らない」と答えた方にお聞きします。条例をどこで知りましたか。当てはまるもの全てに○をつけてください。
(複数選択可)

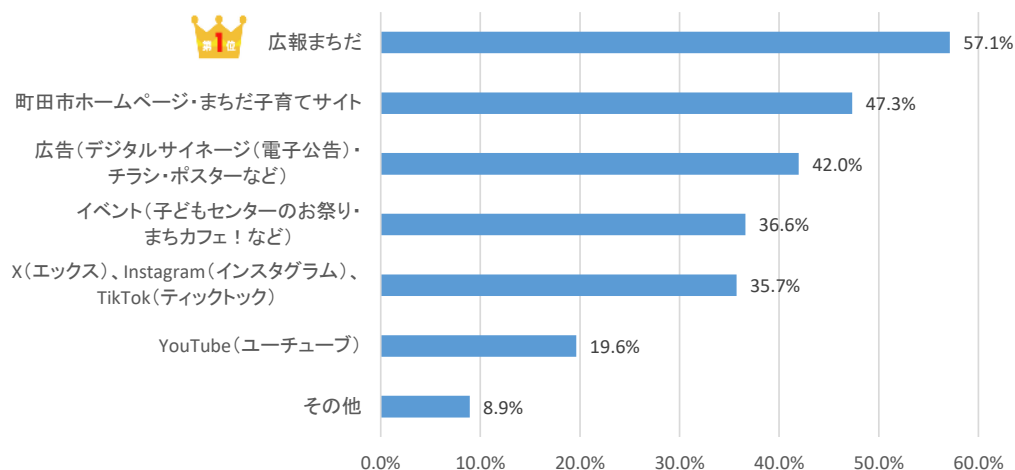


36名中22名が、「広報まちだ」と回答しました。

【その他のご意見】（抜粋）

このアンケートで知りました。

問13 問11で「3. 聞いたことがない」と答えた方にお聞きします。条例を知ってもらうためには、どのような広報活動が効果的だと思いますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。（複数選択可）



112名中64名が、「広報まちだ」と回答しました。

【その他のご意見】（抜粋）

若者へのアピールには、「X（エックス）、Instagram（インスタグラム）、TikTok（ティックトック）」だと思う。

ホームページは仕組みが複雑で、目的の情報を得るためにはいくつもの階層を掘り下げていかなければならない。探すのに何回も苦労したことがある。条例を作りホームページにアップしただけではダメ。もっと市民に知らせる努力をすべきでは。掲示板・回覧板が良いのでは。

回覧板など。

駅周辺の飲食店や書店などに広告があったら良いかも。

保育園でのポスター掲示。子供が園庭で遊んでいるときなど、掲示板を見ている保護者は多いです。

駅、スポーツクラブ、スーパーマーケット、コンビニ、コミュニティセンターなどに広告を置いたらどうか。保護者や教員、未成年者向け施設の職員などは、この条例について関心があるだろうが、それ以外の人には関心を持ってもらえない。未成年者と成年者がともに利用する施設に広告を置くことで関心を持ってもらえるのではないかと思う。

子育てするための親の向き合い方、親の姿勢、親の導き方などのアドバイスをしてくれる専門家の講演会などを開催してほしい。

選択肢の広報媒体を良く見ていないのが現状です。「読ませるには、見せるには」を考える事と、何度も繰り返し発信する事も必要。

SNSはパーソナライズされているため、皆が必ず目にできるような街頭広告、車内広告（ビラ、音声、映像）などの方が効果は高いと思います。また、可能かどうかは分かりませんが、選挙や免許更新など市政に興味がない・触れる機会がない市民でも集まるような場所で配布することも効果的かもしれません。

学校からのお便り。

問14 あなたは、PRキャラクター【カワセミ先生】・【“子どもの味方”カワセミレンジャー】を知っていますか。当てはまるものに○をつけてください。
(1つだけ選択してください)

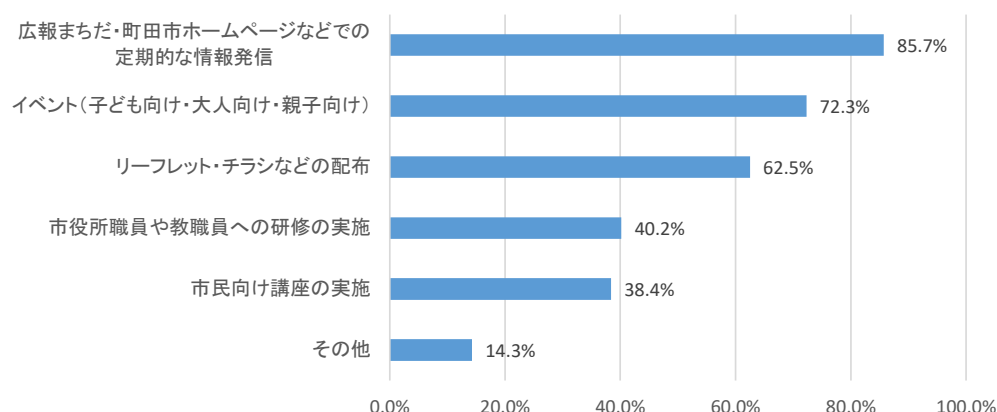


回答内容	回答数	構成比
知っている	14	9.6%
知らない	130	89.0%
無回答	2	1.4%



全体の89.0%の方が、「知らない」と回答しました。

問15 あなたは、保護者・学校関係者・地域住民・事業者・市などすべての大人が「子どもの権利」を理解するために、どのような取り組みが効果的だと思いますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。(複数選択可)



145名中96名が、「広報まちだ・町田市ホームページなどでの定期的な情報発信」と回答しました。

【その他のご意見】(抜粋)

保育者も繰り返し研修できること。やはり繰り返し聞くことで広まっていく気がします。
あらゆる情報発信方法を使うと共に、地域でのイベント・講座を利用して周知、研修すれば理解が広まり、深まると考える。
幼稚園・保育園・学校など規模でのイベント。広報まちだ・町田市ホームページ、リーフレット・チラシ、イベント、市民向け講座は、参加のある人興味がある人だけに限定されてしまう。市役所職員や教職員への研修は直接的に効果があるのか分からない。運動会や文化祭などの機会を利用して大人も子供も集まるイベントで特設ブースを作って理解を深めてもらう。書面(リーフレット)や動画で見るよりも体験型の方がより具体的に内容を発信することができ大人の方に興味を持ってもらえると思う。
子どもの日やひな祭り、連休などに子どものためのフェスティバルを開いて、親子で楽しむイベントや心が温まる映画を観たり、やさしい気持ちになるような企画をたて、老若男女が集う場所作りをする。
SNSの活用。

子育て中はアンテナを張っており情報も入ってくるため、子供に関する市の取り組みを目にする機会があったが、新聞購読しなくなり広報まちだも見なくなった。イベントを開催しても興味のある世代にしか情報が届かないかもしれない。バス停や、駅の広告等、目にする機会があると誰かの目に留まるかもしれない。公共施設のトイレなども並んでいる間に読めて良いかもしれない。
全ての親が参加する健診などで説明した方がいいと思う。（理想としては免許の更新時講習のようにして、子どもの権利を理解しない親がいないように）
町田市は、商業地区が多いので、イベントの際は、町田市役所の専門ブースを設け、どんなイベント内でも、市役所外で、直接対面で市民との交流の場や、情報発信の場を設けて欲しい。
子どもへの教育。子どもの口から保護者に伝えるルートがあっても良い。
自治体のイベントで発信する。
学校からのお便り。
出産前の両親学級、また小中学校や保育園、幼稚園の保護者会などの中に、「子どもの権利」に関するミニ講座を組み込んだらいいなと思います。

問16 あなたは、「子どもにやさしいまち」を実現するために、どのような施策に優先的に取り組むべきだと思いますか。当てはまるものに○をつけてください。
(1つだけ選択してください)

	回答内容	回答数	構成比
	子どもへの条例の理解促進	7	4.8%
	保護者・地域住民・事業所などへの条例の普及・啓発	25	17.1%
	市役所職員や教職員への条例についての研修	6	4.1%
	子どもの居場所・遊び場づくりの支援	57	39.0%
	市政やまちづくりに子どもの意見を聴く機会の充実	13	8.9%
	市政やまちづくりに子どもの意見を反映する仕組みづくり	9	6.2%
	子どもの相談窓口の充実	17	11.6%
	その他	10	6.8%
	無回答	2	1.4%

… 全体の39.0%の方が、「子どもの居場所・遊び場づくりの支援」と回答しました。

【その他のご意見】（抜粋）

不登校児童への対策。
子供に意見を聞いても理解できとは思えない。まわりの大人が理解して行動すべき。まず、大人への周知が重要と考える。
子供食堂の整備・拡充と資金援助。

生きることの大切なこと。（自分の命も他の人、動物、物など命も大切であることを知って欲しい）
児童手当の充足や税金、税率を下げる事を優先に取り組むべきと思います。
学校の全校集会でこのことを説明してほしい。情報を集める能力がない人たちの取りこぼしが無いように、広く満遍なく誰にも伝わるようにしてほしい。
子どもが自由に好きなことをして過ごせる場所をたくさん作って欲しい。
予算の分配を子供関連にシフトする。
未就学児に関しては家庭の環境が大切である一方で小学生以上は友人関係が大切だと聞きますので、家庭および学校における人間関係の補助・整備を徹底することが大切だと感じます。

問17 あなたの現在の立場から、「子どもの権利」―【生きる権利】【育つ権利】【守られる権利】【参加する権利】―を守るためにできる取り組みとして、どのようなことが考えられますか。ご意見を自由にお書きください。（自由記述）

- （例）
- ・保護者・・・家での約束を子どもと作るなど、子どもの意見を聴き一緒に考えていく。
 - ・地域住民・・・通学路での旗ふりや子ども110番の家など、地域で子どもを見守る。
 - ・企業は・・・産休や育休などを取りやすい職場作りをする。

地域に住んでいるお子さんたちに関心を持ち、会ったら声をかけたり、挨拶したりとみんなで見守っていく。日頃から社会の大切な子どもとの思いで見守っていく。子育て最中の親御さんにも声をかけ、温かく見守っていく。
通学路での旗ふりを時々お手伝いをしていますが、昔のように子供に一時停止をするよう促したり声かけをして注意をするなど、自分の子供を育てていた時のように見守ってゆきたいと思っています。
保護者…子供との約束を守る。自ら選択、決断、行動させるよう自律・自立出来るよう見守る。地域住民…通学路での見守り活動。
自分は子供がいないので、お子さん連れの方が困っていたりすれば声掛けなどでできればと思っています。（電車でベビーカーの乗り降り道を開けてもらえるようお願いしたり）
子供を守る、助けることが子供にやさしくするという事になるという考えがあるが、私はそうは思いません。ともすれば、大人の尺度で良い悪いを判断する傾向はしてはならない事だと思います。子供が自分の考えや意見をしっかりと表現できる環境を作り、その意見を尊重することが大人に求められると思います。地域住民として、日頃接する子供達が何かあれば頼れる大人と思ってもらえるよう心掛けなければならない。
子供が既に成人している立場から 習い事、塾にしても家庭によっては通わせられない事情がある。そのような体験格差をなくすために無料または少額で通うことができる寺子屋のような存在があれば良いかなと思う。それによって【生きる権利】【育つ権利】【守られる権利】【参加する権利】を守られる気がする。
「保護者」子供のやりたいことを一緒に考えサポートできる環境を作る。「地域住民」子供が遊べる場の提供、子ども食堂のサポートイベント等で絆をつくる。「企業」子育てサポートを支援する。子ども食堂へのサポート。イベント企画など。
地域で子供を見守る。特に通学路では安心して通えるように旗振りなどで見守る。
イベント等のお手伝い。配布物のポスティングなど。

子供も一人の人間として尊重しプライバシーを守る生活環境を整える。誕生日・お正月・おひな様などお祝い事を家族で一緒に祝うようにする。戦争に巻き込まれない社会や政治に賛同する。
ボランティアでの機会があれば通学路での旗振りや110番の家イベントのお手伝いなど参加したいと思います。
子どもの権利を守る活動をしている支援団体に寄付する。子どもの権利を守るための取り組みについて学ぶ。
地域住民としては、昨今子どもを取り巻く事件が多いので、町で子供を見掛けても声を掛けづらいというのが本心です。でも、求められた時には快く対応したいと思っています。
「地域住民」一人で歩いていたり、いつも様子がおかしいと感じたら迷わず子育てセンターへ連絡を。子供から言うのは難しいので周りの大人が気づいて守るべき。「企業」子供の病気による有休が足りない場合への援助（子供が3人以上いるとかなり大変）。
ひとり親の子育ての大変さや、いじめにしても見過ごせなくなっているように思える。そういった親や子供が相談できる所や、今どのような状態なのかを知ったうえで問題意識を持ちたいと思う。その上で、何が出来るのかを考えていきたいです。
地域で子どもを見守るのが一番だと思うが、昨今は知らない人と話をしない！とか、いろいろな問題があるのでなかなかむずかしい。子供会もないし。
地域住民として、子供達に声がけをするようにしている。「何をしているの？」「頑張ってる！」すると、子供から情報を教えてくれる。「地域で優勝したよ！」小さなコミュニケーションが町を明るくすると思っている。
夫が積極的に子供の家事・育児に参加する。
少子化、一人っ子、多様性の社会から大人の側から最適な目標を定めようとするのは難しいのではないのでしょうか。幼児期は子育て家庭への見守り等が最重要と考えます。成長していくにつれて子どもを守るから子供の存在を大きくする社会の一員として自覚できるような活動が大人にも求められると思います。例）スポーツでの交流・大学生、高校生との交流・地域のイベント参加・老人施設への慰問など。学生主導で行うと教職員の方々の負担が大きくなる高齢者のボランティア活用を検討すべき。
子供と一言で言っても、それぞれの年齢性別により考え方や大人に求めているものは様々だと思う。まずは今の子供たちが何を求めているといったことに不満を持っているのか、大人目線から一方的に考え方を押し付けるのではなく、直接子供たちに聞くことが大切だと思います。特に中学生以上の年齢になってくると自分が考えていることを発言できる機会も少なくなり「言ってもどうせ無駄」とあきらめてしまう子もいます。「子供を守る権利」を全ての大人が平等に知る必要があります。様々なタイプの大人に満遍なく「子供たちの考え」を伝えてほしい。そこから大人たちに出来ること出来る大人たちが実現させていけばいいと思います。
「行ってらっしゃいやお帰りと声をかける」「道路で遊ぶ子に危ないよと注意する」「うつむいて歩く子に何があったのと声をかける」等関わる方法を考えましたが、いきなり見知らぬ人から接触されたら子供は怖いだろうし、この時代では他人の大人が気軽にできないこともある。悩んでいる子供や苦しんでいる子供が自ら助けを求められるような場所が地域に増えると良い。
（例）の全てが「子どもの権利」を守るための取り組みと、どう関係するのかが不明でイメージできませんでした。大人が子供に代わりできる大きな権利である選挙にしっかり興味関心を持ち、権利を履行したいと思っています。
子供会、地域のイベント等、子供同士、地域の大人と触れ合える機会を多く設け、子供の声を聞き、時に助けられる環境づくり、子供を孤立させない取り組み、子ども食堂等。

出来る範囲で小中学校のPTAお手伝いに参加して保護者、先生方と関わる中で子供たちの「今」を知って共に考えていく。
子供がいなくて関わる機会はとても少ないですが、子供のために使う基金などあったら寄付という形で参加していきたいです。
子どもとのコミュニケーションをとっていく事。忙しいと、どうしても「あとで」とか「まって」とか言ってしまうので、子どもが話を聞いてほしい時は出来るだけ手をとめて聞く事が大事なかなと思います。
他人の子供に注意等の指導をする。また、指導された親は素直に受け取り、指導を受けた子供とよく話し合い、今後はどうしていくか納得した上で決めて行く。地域全体で理解し進めていく。
ウォーキングや犬の散歩を通し、地域で子供の安全を見守る。
現在、見ず知らずの大人からの声掛けに対して、過度に無視または怪しがる傾向がある地域があります。親子で相手に対する話し合いや、地域に親子で関り行事に参加する等お互いに顔を合わせる機会が多いと良いと思います。
困っている子どもは自ら困り事を大人に相談することがなかなかできない。教員など身近な第三者の大人が声掛けしていける体制や環境作りが大切だと思う。
子どもの日々の生活や環境など守られているものがあること、権利があることを伝えていく。
主役である子供の意見を聞き政策を考える。子供を大切にするためには大人の心の安定が必須。核家族、ひとり親世帯の増加で子育てに不安を抱く親のサポートの充実。子供を持たない大人への子育てに対する理解促進も欠かせないと考えます。
子供の手本になる成熟した市民の行動をすること（例：自治会などのボランティア活動）
地域の子供たちとの交流で今の子供の声を聞く機会を持つ。
【守られる権利】地域住民の立場で、子供達に挨拶などで声かけをして、大人から見守られている安心感を与える。声かけをする際、できるだけ親子一緒の時、親ともコミュニケーションを取ることで、子供は安心な大人だと理解できるようにする。【生きる権利】、【参加する権利】障がい者、高齢者の為のデザイン活動とそれを活かした大学での課題作成、体験授業指導を行ってきた経験から、学校の授業の一環で共生社会についての授業のサポート。
現在、医療従事者として働いています。同年代の若いお母さんが、子供が1歳になったら夜勤に入るよう言われたと聞きました。また他機関ですが、出産後3ヶ月過ぎには職場復帰するのが当たり前になっている職場もあると話も聞きました。子育てに関して色々とは制度はあるとは思いますが、現場で活用ができていないのかなと感じました。子育てに関してもう少し職場でも理解があれば、子供を育てやすくなるのではと思いました。
親と子供のコミュニケーション技術を育むための教育
子どもの意思を尊重して自由にのびのびと育つよう見守る。
保護者として、子ども自身の考えをしっかりと聞き、自分の意見を持つことが大事であることを感じられるように受け止めていきたいと思います。ただ、時間がなく、しっかりと聞かない場面が多く、この意識を親である自分が改めてしっかりと持つこと、そういった時間をお互いに持つ意識を高めることが大事なのではと思います。
企業・ハローワーク等、産後ブランクがあっても復帰しやすい環境を作る。
大人の教育が必要だと思います。交通ルール、歩行喫煙など小学校では教えてもらっても、守らない親（大人）の姿を子どもたちはどう思うか。大人のモラル教育から子どもの権利に目が向くと思いました。

子ども自身が中心となり、発案→実行→見直し・反省→改善のサイクルでステップアップしていく仕組み
保護者や子供向け施設の職員、教員、図書館の職員など日常的に子供と接する人は自然と関心を持つと思う。一方子供と接する機会のない人は関心を持つことは期待できない。そのような人に向けて情報発信をしていかないとこれらの権利が理解されることはないと思う。これらの権利に基づいて行われる施策について、具体的にどの権利に基づくのか、発信していけばより理解が深くなると思う。
地域の見守りをして、治安維持をする。
旗振り当番への参加、通学路の掃除。
子供が熱などで幼稚園から連絡があった際、企業は社員を帰さないといけないルール作り。違反した際の罰則も作る。
親という立場ではないが、子どもが気軽に相談等ができる大人がいるといいと思う。
政府が企業に対して産休育休の強制取得を働きかける。
親の交流できる場所（子育てについて意見交換できる場）
子どもを地域住民として見守ること。年齢が近いので、困っていることはないかなど相談にのれる。
家、地域、学校それぞれが共通意識があれば、とても心強いと思います。家、帰宅時間の約束、学校、先生方のみまもり、地域、交通安全のみまもりなど。子供自身には、困った時、子供110番の家の認識など。
地域住民：虐待等が疑われる場合に迷わずに通報出来る環境作り、企業：子供が参加できる取り組みを考える。
●学校、保護者…実際に起きた事故、事件を子供たちに伝え、危険な行動、危険な場所、その時の対応方法などをしっかり理解させ危機感を持ってもらう。●地域住民…大人でも子供でも事件や事故にあっているのを見かけた時にどう対応するか、どこに連絡すれば良いかを速やかに判断できるような環境作りをする●企業…誰のための休暇なのかを理解し、休暇をとりやすい職場であってほしい。子供のため、自分の通院、親の介護など体が休まらない休暇であることを理解してもらい、お休みできないために子供を放置しなければならない環境が子供の危険につながることもある。安心して働ける親、安心して遊びに行ける子供の街になってほしい
子供家庭の保護者が、もっとゆとりを持てるように、市政がサポートする。
企業が子供を養育するための休暇や早退制度を促進するだけでなく、それを利用する人の中で役職が偉い人から積極的に使って、誰でも使える雰囲気作りを作る。
地域住民として、子どもが参加できるイベントを企画、実施する。職場の上司として、子どもを持つ職員の働きやすい環境の整備を行う。
働いていても働いていなくても子供を預けられる場所が沢山あると良い。
子どもが何かあった時にすぐに意見を言える場所を作り、子ども達に周知させる、駆け込み寺のようなもの。

一年間、ご協力いただき
ありがとうございました。
皆様の益々のご活躍を
お祈り申し上げます!!





町田市市政モニター
イメージキャラクター
もにっち

2024年度 第2回市政モニター集計結果

発行日	2025年3月
発行者	町田市 〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22 町田市政策経営部広聴課 電話 042-724-2102